

## 幼稚園教育の効果について

～ 幼稚園教育に対する教育心理学的研究 (第2報) ～

淵 上 孝, 篠 原 優

仁 王 義 彦 (鹿大教代用付属伊敷中)

## ( I ) 問 題

幼稚園教育の本質や、人間形成における幼児期の意味についての理解は、しだいにたかまってきた。このことは Table 1 の全国的な幼稚園数の増加や、小学校新入学児童のうちで、卒園児のしめる割合のそれにもあらわれている。

しかし、昭和36年現在、全園数の66%が私立であること、教師の給与がきわめてひくく、しかも、その私立の場合、幼稚園経営自体の力では、将来においても、その飛躍的な向上が期待できないこと、無資格の教師がいちじるしく多いことなど、いくたの問題をはらんでいる。

さらに、昭和37年2月1日から、幼稚園設置基準も一おう完全施行の予定であったが、その実施について多くの問題が指摘され、ついに五年間の延期となった。

ところで、幼稚園教育をめぐる一つの盲点として、保育効果への実証的な研究のとぼしさがあげられる。

すなわち、卒園児と非卒園児、二年保育児と一年保育児の人格的特性の差異がたしかめられず、ただ常識的あるいは観念的に「幼稚園にあげれば、よりよくなる」とか、「経験的にそんな気がする」とか考え、いわれている傾向がある。

父母たちも「社会性をのばしたい」「才能の芽生えをそだてたい」「知能がたかくなるだろう」などと、漠然とした期待をよせているらしい。

このことは幼稚園の教師をして、不当な劣等感をいだかせたり、意識過剰にはしらせたりするとともに、小中学校の教師や一般社会人をして、軽視あるいは無視させる要因ともなっている。

昭和35年度の九州心理学会において、われわれが発表した「幼稚園教師における適応の推移について」の内容である Table 2 から、そのことがうかがえる。すなわち、小中学校の教師と幼稚園の教師や保護者の間には、保育効果の見方について、いちじるしい落差がある。

なるほど、幼稚園では発達の未分化性に即応して、教科的な指導をさげ、いわゆる保育の六領域を背景としたコア・カリキュラム的な持導がおこなわれている。さらにテストをしたり、通知表を

Table 1 幼稚園の増加状況

年 度	園 数	備 考
明45	550	文部省、わが国教育の現状(昭28)幼児と保育(昭36.10)日私幼時報(昭36.5)による。
大15	1,050	
昭17	2,085	
昭25	2,100	
昭28	3,428	
昭30	6,650	
昭35	7,055	

Table 2 保育効果の考た方

態 度 群	幼稚園 園師	保護 者	小教 中 学 校 師	適 応 群	中 間 群	不 適 応 群	県 外	備 考
大いにあり	*62%	*49	*21	*62	54	*72	72	p<0.05
かなりあり	*32	34	*23	29	43	24	25	p<0.01 p<0.05
子供による	2	*5	*37	3	2	0	2	p<0.01
家庭保育よりまし	1	*5	*15	2	0	0	0	p<0.01
家庭保育まさる	0	0	1	0	0	0	0	
不明	3	7	5	5	0	3	2%	

註 昭和35.12 九州心理学会発表  
幼稚園設置基準の完全施行にともなう教師の適応の推移について。(第一報) p7

わたすこともない。

しかし、指導要録の存在をとりあげるまでもなく、保育の評価を否定するものではない。それは部分的、常識的にも、種々のかたちでお

こなわれている。教育活動と評価の一元性を考える時、そのことはまさに当然のことである。

われわれの見解によれば、科学的、教育的に、保育の効果をはたかめる実証的な研究のとぼしさは、この教育に関心をよせる多くの人々の盲点であったといえる。

われわれは、このような事実に着眼して、次のような諸角度から、幼稚園における保育効果をあきらかにしたいと考えた。

- (1) 幼稚園教師、小学校教師、保護者などが、保育効果をどう考えているか。
- (2) 保育期間の長短によって、園児の人格的特性に、どんな差異がみられるか。
- (3) 小学校生活への適応において、卒園児と非卒園児には、どのような差異がみられるか。

これらの問題のほか、園の類型や教師のそれによる保育効果の差異、成長発達の推移にともなう継続性など、多くのものがあげられる。

しかし、それらは今後の研究にまつこととして今回は割愛した。

## (II) 方 法

これらの問題をあきらかにするために、われわれは、次のような方法を実施した。

### (一) 保育効果の調査

(1) 新入園児 95 名、卒園児 94 名に、付録(1)の様式による精神能力調査をおこなった。(昭和 36 年 3 月)

(2) 在園児 75 名に、鈴木式実際の、個別的知能検査を実施した。(昭和 36 年 4 月～5 月)

(3) 在園児 137 名に付録(2)の様式による家庭環境調査を実施した。(昭和 36 年 5 月)

(4) 鹿児島市における小学校 30 校の一年担任と、幼稚園 37 園の教師による小幼連絡研究会の参加者を対象として、保育効果の考え方についての質問紙調査を、付録(3)の様式で実施した。(昭和 36 年 6 月)

(5) 在園児の保護者 137 名に、幼稚園へ入れた動機、期待した保育効果、保育効果の反省を内容とする付録(4)の質問紙調査を実施した。(昭和 36 年 7 月)

(6) 小学校1年に在学する卒園児の保護者80名に、幼稚園へ入れた動機、期待した保育効果、保育効果の反省を内容とする質問紙調査を、付録(4)の様式で実施した。(昭和36年4月)

(7) 小学校1年に在学する児童を対象として、卒園児と非卒園児の比較研究をおこなうため付録(5)および(6)の要領で実施した。(昭和36年7月)

(二) 保育効果の実験

在園児76名を対象として、次のような要領で、保育期間の差異による人格的特性の比較実験をおこなった。

(1) 日 時

昭和36年7月22日, 23日(第1回)

昭和36年7月24日, 25日(第2回)

(2) 対 象 一之宮幼稚園在園児75名

第1回 黄組(1年保育)40名

第2回 緑組(2年保育)35名

(3) 内 容

Table(3)の記録用紙による。

Table 3 保育効果に関する実験の記録用紙(S.36.7)

No.	園児名			性別	男	女	組名	緑	黄						
	保育期間	1年	2年							家庭の職業	生年月日	年	月	日	知能指数
1	ブランコのり			よくこげる, どうかこげる, できない						備考					
2	片足あるき			3	2	1									
3	言語表出			明瞭さ	3.	2.	1	元 気 さ	3.	2.	1	観察事項			
4	言語障害			有 無	類 型	吃 構 音 障 害 無	内 容								
5	語彙量			鳥の名			果物の名								
6	積木遊び			3.	2.	1	観察事項								
7	歌唱能力			旋 律	3.	2.	1	発 声	3.	2.	1	歌 詞	3.	2.	1
8	拍子打ち			3.	2.	1	観察事項								
9	リズム運動			3.	2.	1	観察事項								
10	輪投げ			成 功 個 数		1 回 目		2 回 目		3 回 目	観 察 事 項				
11	絵画			態 度	3.	2.	1	作 品	3.	2.	1	時 間	分	内 容	
12	製作			態 度	3.	2.	1	作 品	3.	2.	1	時 間	分	内 容	
13	集団行動			指 導 性	3 2 1	協 調 性	3 2 1	観 察 事 項							

## (4) 分 担 (全般, 淵上, 篠原)

第1班 仁王, 桜井 (プランコのり, 片足あるき, 輪投げ, 言語表出)

第2班 川路, 小倉 (語彙量, 言語障害)

第3班 後藤, 桐木 (歌唱能力, 拍手打ち, リズム運動)

第4班 児玉, 益満 (積木遊び, 絵画, 製作)

## (5) 方 法

園児は男女混合の4群にわけ, 四ケの班で, 平行して実施した。ある班の実験がおわれば, 他の班へ誘導して待機させた。各領域における実験条件の統制は, 事前の協議会で打ち合わせた通りとした。

できるかぎり光背効果をさけ, 客観的に観察し, 記録した。実験者の中, 幼稚園の職員でない学生には, 実験前に園児とのレポートをたかめるよう工夫した。集団実験は全員であたり, 各組とも第2日目に, 各領域の実験終了後に実施した。

## (三) 実験対象の知能

Table 4 鈴木式個別知能テストによる  
緑組の知能分布

知能段階	知能指数	人数	%	自然分配
最優	131以上	8	23	3%
優	130~118	14	40	10
中上	117~108	5	14	18
中	107~93	7	20	38
中下	92~83	1	3	18
劣	82~71			10
最劣	70以下			3
備 考		M=120.3 S. D.=13.56		M=100.0 S. D.=15.0

Table 6 鈴木ビネー式知能テストによる  
黄組の知能分布表

知能段階	知能指数	人数	%	自然分配
最優	131以上	6	16	3%
優	130~118	9	23	10
中上	117~108	12	31	18
中	107~93	8	21	38
中下	92~83	3	8	18
劣	82~71	1	3	10
最劣	70以下	0	0	3
備 考		M=118.2 S. D.=16.37		M=100 S. D.=15.00
緑組2年保育と黄組の差 CR=1.53 p<0.01				

Table 5 緑組における保育期間と知能度の関係

知能段階	知能指数	2年保育		1年保育		合 計		自然分配
		人数	%	人数	%	人数	%	
最優	131以上	7	32	1	8	8	23	3%
優	130~118	7	32	7	54	14	40	10
中上	117~108	5	23	0	0	5	14	18
中	107~93	3	14	4	31	7	20	38
中下	92~83	0	0	1	8	1	3	18
最劣	82~71	0	0	0	0	0	0	10
劣	70以下	0	0	0	0	0	0	3
備 考		M=124.3* S. D.=12.53		M=113.5* S. D.=13.30		M=120.0 S. D.=13.56		M=100.0 S. D.=15.00
CR=3.97 p<0.01								

鈴木式実際の個別的知能検査による園児の知能分布は, Table (4) (5) (6) のとおりである。

原則として緑組は二年保育, 黄組は一年保育をもって編成されている。緑組35名のうち, 園の経営上の要請から, 「早生まれ」のもの13名が混入されている。緑組の二年保育児と黄組の一年保育児の知能度をくらべるとき, 両群に有意の差はみられなかった。ただ緑組内で比較すれば保育の期間や有無による有意の差がしめされている。

(四) 実施上の留意点

(1) 保育効果の内容は、幼稚園教育要領に準拠し、社会、自然、健康、言語、絵画製作、音楽リズムの六領域を背景として考えるとともに、成長発達の四分野にわたってたしかめるよう努力した。

(2) 多くの人々によってとかれるように、幼稚園における保育効果の重点は、社会性をのばすこと、知的、身体的な才能の芽生えをより適切にそだてることにしぼられる。この研究においても、なるべく、この両者を焦点として実施した。

(3) いうまでもなく、すべての人格的特性の形成は、素質と環境の相互規制である。

保育の効果も園児の素質的な条件や、家庭の教育的、文化的、経済的な諸条件に支配される。そこで、二年保育児と一年保育児、卒園児と非卒園児の人格的特性の比較研究にあたって、なるべく統制群法によるよう努力した。

(III) 結 果

以上のような研究方法による結果のあらましは、次のとおりである。

(一) 保育の有無と精神能力

付録(1)の精神能力検査を実施した結果は、Table 7 のとおりである。

卒園児、入園児とも、昭和36年3月に実施した。

この表によれば、あきらかに卒園児がすぐれている。しかし、生活年齢が一年多いので、その期間における成長発達が考えられること、人格的特性や家庭その他の条件がひとしくないことなど、種々の要因のため、卒園児と入園児の差を、保育効果だけによるものと考ええることは妥当でない。

(二) 保育の期間と知能

Table 6 における二年保育児と一年保育の知能度をくらべると、有意の差はないとしても、傾向としては、二年保育児がすぐれている。緑組内部の場合、標本の制約はあるが二年保育児の知能がたかい。

(三) 教師の保育効果観

付録(3)による質問紙調査の結果は、Table 8 のとおりである。この表によれば、幼稚園教師、小学校1年担任教師、教育学部学生の三群とも、積極的に保育効果をみとめるものが多い。とくに幼稚園教師は33項のうち、23項について、小学校教師と有意の差をもって、保育の効果をみとめている。

幼稚園教師の70%以上のものが、積極的に保育の効果をみとめているものは、次のとおりである。

Table 7 精神能力調査の得点分配表

得 群 点	入 園 児 (36年度)	卒 園 児 (35年度)
5.1~6	1%	0%
6.2~7	1	0
7.1~8	2	0
8.1~9	3	0
9.1~10	6	0
10.1~11	5	1
11.1~12	10	0
12.1~13	7	1
13.1~14	9	1
14.1~15	7	5
15.1~16	10	13
16.1~17	7	8
17.1~18	17	12
18.1~19	11	34
19.1~20	4	25
備 考	N=95 M=14.38 S. D=3.45	N=94 M=17.74 S. D=1.829
	CR=8.42	p<0.01

- (1) 学校生活へのよろこび。
- (2) 集団活動への参加。
- (3) 自主的な行動。
- (4) 協力する態度。
- (5) きまりを守る態度。
- (6) 友人数。
- (7) 教師への話しかけ。
- (8) 仕事の順序の理解。
- (9) 幼児語。
- (10) 問題解決力。
- (11) 教師への質問。
- (12) 身近にあるものへの関心。
- (13) リズムによる表現。
- (14) 絵画による表現。
- (15) わずかなことで泣く。
- (16) 審美感。
- (17) 道徳性。
- (18) 健康への関心。
- (19) 運動能力。
- (20) 自分の身体への関心。

小学校教師の70%以上のものが、積極的に効果をみとめるのは、次の6項だけである。

- (1) 集団活動への参加。
- (2) 自主的な行動。
- (3) 友人数。
- (4) 教師への話しかけ。
- (5) リズムによる表現。
- (6) わずかなことで泣く。

教育学部の学生によれば、次の10項で積極的な効果をみとめている。

- (1) 集団活動への参加。
- (2) 自主的な行動。
- (3) 友人数。
- (4) 教師への話しかけ。
- (5) 仕事の順序の理解。
- (6) 共通語を話す能力。

- (7) 教師への質問。
- (8) リズムによる表現。
- (9) 安定感。
- (10) わずかなことで泣く。

幼稚園教師，小学校教師，教育学部学生の70%以上のものが，共通して積極的に効果をみとめるのは，次の6項である。

- (1) 集団活動への参加。
- (2) 自主的な行動。
- (3) 友人数。
- (4) 教師への話しかけ。
- (5) リズムによる表現。
- (6) わずかなことで泣く。

積極的な保育効果の支持率で，幼稚園教師と小学校教師に50%以上の落差があるもの，いいかえれば，幼稚園教師より50%以下にしか積極的な保育効果をみとめていないものは，次の4項である。

- (1) きまりを守る態度。
- (2) 話を終りまできく態度。
- (3) 偏食。
- (4) 姿勢。

幼稚園教育をうけることによって，かえってわるくなるとか卒園児の方がおとると，小学校教師によって考えられているもののうち，10%以上のものは，次の7項である。

- (1) きまりを守る態度。
- (2) 弱い者をいたわる態度。
- (3) 話を終りまできく態度。
- (4) 根気づよさ。
- (5) かんしゃく。
- (6) 偏食。
- (7) 姿勢。

おなじ趣旨のものとして，教育学部学生は次の2項をあげている。

- (1) 身近にあるものへの関心。
- (2) かんしゃく。

なお，幼稚園教師では，保育効果の程度や有無について，「不明」という解答の多さがめだっている。

Table 8 幼稚園における保育効果への態度

大項目	小項目	評定段階	+			○			-			不明			備考
			幼稚園教師	小学校教師	学 生	幼稚園教師	小学校教師	学 生	幼稚園教師	小学校教師	学 生	幼稚園教師	小学校教師	学 生	
I 社会的 発達	1	学校生活へのよろこび	96	56	50	2	41	33	0	0	3	2	3	14	*p<0.01
	2	集団活動への参加	75	78	70	11	21	18	0	1	3	14	0	9	
	3	自主的な行動	80	72	73	8	26	18	0	1	2	12	1	7	
	4	協力する態度	74	42	48	9	54	38	0	3	4	17	1	10	*p<0.01
	5	きまりを守る態度	72	9	51	14	70	34	0	17	6	14	4	9	*p<0.01
	6	友人数	91	92	80	5	6	12	2	1	0	2	1	7	
	7	教師への話しかけ	90	90	86	2	9	5	2	1	2	6	0	7	
	8	弱者をいたわる態度	56	12	14	26	78	58	2	10	5	16	0	23	*p<0.01
	9	仕事の順序の理解	75	64	70	3	31	20	0	1	1	22	4	9	
II 知的 発達	1	文字への関心	67	40	50	16	54	35	0	1	6	17	5	9	*p<0.01
	2	教唱能力	64	65	63	14	34	28	0	0	1	22	1	8	
	3	具体物をかぞえる能力	68	55	68	9	41	20	0	1	0	23	3	12	
	4	共通語をはなす能力	64	61	71	12	36	23	2	3	0	22	0	6	
	5	幼児語	86	54	63	5	38	27	0	8	2	9	0	8	*p<0.01
	6	話を終りまできく態度	59	7	32	23	70	45	2	23	7	16	0	16	*p<0.01
	7	計画をたてる能力	56	44	43	16	47	37	0	1	0	28	8	18	
	8	問題解決力	62	36	52	11	58	32	0	1	0	27	5	16	*p<0.01
	9	教師への質問	82	67	76	5	32	16	2	0	2	11	1	6	*p<0.50
	10	身近にあるものへの関心	75	40	25	6	57	43	0	3	16	19	0	16	*p<0.01
	11	リズムによる表現能力	84	87	82	3	12	11	2	1	0	11	0	7	
	12	絵画による表現能力	75	58	65	11	37	25	0	4	0	14	1	10	*p<0.05
III 情緒的 発達	1	安定感	77	50	71	9	43	20	0	4	2	14	3	7	*p<0.01
	2	根気づよさ	47	14	20	32	69	58	2	17	6	19	0	16	*p<0.01
	3	動植物への愛情	61	17	20	22	78	59	0	1	7	17	4	14	*p<0.01
	4	かんしゃく	56	12	22	22	67	38	2	18	15	20	3	25	*p<0.01
	5	わずかなことでなく	87	73	70	2	37	19	2	0	2	9	0	9	*p<0.05
	6	審美感	71	38	36	9	56	49	0	1	0	20	5	15	*p<0.01
	7	道徳性	78	32	65	8	60	26	2	4	2	12	4	7	*p<0.01
IV 身体的 成長	1	健康の習慣	78	60	64	6	32	16	2	0	1	14	8	9	*p<0.05
	2	偏食	67	5	34	12	68	43	2	21	5	19	6	18	*p<0.05
	3	運動能力	80	51	48	11	46	45	0	0	1	9	3	6	*p<0.01
	4	姿勢	56	10	56	20	69	33	5	18	3	19	3	8	*p<0.01
	5	自分の身体への関心	70	33	35	12	61	47	2	1	0	16	5	18	*p<0.01

実施期日 36.6 幼稚園教師N=64 小学校教師N=78 教育学部N=116

十…効果を積極的にみとめるもの 一…みとめないもの ○…かわりないとするもの

備考…\*33ヶの項目は文部省、わが国教育の現状(昭28)によって作成した。



Table 9 幼稚園教師，小学校教師および学生のみた卒園児の長所と短所

記述者	長短	幼稚園教師		小学校教師		学 生			
		内 容	実数	内 容	実数	内 容	実数		
長所	1	社会性がある	38	1	社会性がある	39	1	社会性がある	84
	2	積極性がある	9	2	積極性がある	10	2	知的にすぐれている	34
	3	自主性がある	6	3	知的能力がすぐれている	13	3	積極性がある	34
	4	発表力がすぐれている	6	4	リズム感がすぐれている	12	4	自主性がある	23
	5	安定感がある	5	5	自主性がある	12	5	明朗である	10
	6	明朗である	3	6	しつけがよい	12	6	言語的にすぐれている	8
	7	礼儀正しい	3	7	態度があかるい	6	7	リズム感がすぐれている	7
	8	言語的にすぐれている	3	8	他人をよく世話する	4	8	絵画能力がすすんでいる	3
	9	運動能力がすぐれている	2	9	運動能力がすぐれている	2	9	身体的にすぐれている	3
	10	観察力がすぐれている	2						
	11	其の他	3						
短所	1	学習行動での幼稚園ずれ	38	1	学習態度がわるい	24	1	優越感をもちやすい	37
	2	世話ずきすぐ出しゃばる	8	2	勝手な振舞が多い	18	2	わがままである	16
	3	依頼心がつよい	3	3	団体生活ずれしている	13	3	忍耐力がとぼしい	12
	4	ものを粗末にする	2	4	あきやすい	9	4	純真さがすくない	11
				5	優越感あり	5	5	入学への魅力が乏しい	11
				6	かげひなたあり	3	6	あまえ子になりやすい	6
				7	依頼心つよし	2			
				8	人の世話をやきすぎる	2			
備考	調査期日 36.6		付録(3)の自由解答分		幼稚園教師 64名	小学校教師 78名	学生 116名		

Table 10 保護者による入園させた動機，期待ならびに現実の効果

入園させた動機			期待した効果			現実の効果		
内 容	実数		内 容	実数		内 容	実数	
1	47	1	団体生活になれさせる	49	1	言語や行動がはきはきした	42	
2	22	2	自主性をもたせる	33	2	しつけができた	33	
3	16	3	しつけのできた子にする	22	3	友だちとよく遊べるようになった	22	
4	10	4	すなおな子にする	18	4	知的能力が発達した	20	
5	9	5	知的能力を発達させる	13	5	生活習慣が身についた	20	
6	8	6	のびのびした子にする	11	6	快活で明朗になった	11	
7	6	7	体位の向上をはかる	11	7	身体が健康になった	8	
8	5	8	情操をたかめる	6	8	偏食がすくなくなった	6	
9	4	9	忍耐づよい子にする	3	9	音楽的能力が発達した	5	
10	4	10	生活習慣を身につけさせる	3	10	幼いもののめんどろがみられる	5	
11	3	11	個性をのばす	3	11	絵がうまくなった	2	
12	3	12	偏食をなおす	1	12	言葉がわるくなった	2	
13	3	13	其の他	0	13	其の他	0	
実施期日 昭36.7			保護者 87名の付録(4)に対する自由解答をまとめたもの					

#### (四) 卒園児の長所と短所

付録(3)の自由記述の内容をまとめると、Table 9 のようになる。

この表をながめる時、三者を通じて、長所では社会性や積極性があること、短所としては「幼稚園ずれがしている」「でしゃばる」「いばる」「あまやかされている」「依頼心がつよい」などがあげられやすいことがわかる。

#### (五) 保護者の保育効果観

付録(4)による保護者の記述内容を頻度順にならべると、Table 10 のとおりである。

入園させた動機や期待した効果では、団体生活になれさせる、学校生活の基礎をつちかう、しつけのできた子どもにする、しっかりした子どもにするなどをねらいとするものがめだっている。現実の効果でも、この領域にふくまれるものが多い。

#### (六) 実験による二年保育児と一年保育児の差異

二年保育児と一年保育児の比較実験の結果をまとめると、Table 11 のようになった。

この表をながめる時、ブランコのり、片足あるき、言語表出、元気さ、旋律、発声、言語障害とくに拍子うち、リズムなどの分野で、二年保育児のすぐれている傾向がうかがえる。絵画製作の分野では、逆の様相もみられるが、これは評価のむづかしさとともに、実験協力者の訓練や理解の不足にもよるものであろう。

これらのことは、質問紙法による調査の結果や、観察による保育期間の長短を基準とした差異などとも、おおむね一致していることがわかる。

#### (七) 観察による二年保育児と一年保育児の差異

実験者となった8名のものが、各担当分野での、全般的な印象として語りあった内容をまとめると、次のとおりである。それらは日常の観察や体験ともよく一致する。ほとんどすべてについて二年保育児がすぐれていた。

(1) ブランコのり…二年保育児がすぐれ、両者にかなりの差異がみとめられた。

(2) 輪投げ…男児の場合、二年保育児がかなりすぐれている。女児の場合、あまりみとめられなかったが、少数のものでは、二年保育児がすぐれていた。

(3) 片足とび…保育期間より通園の距離やその地形による差異がめだっていた。男女には差異がなかった。

(4) 言語表出…二年保育児は全般的に活気があり、明瞭である。二年保育組に編入されている一年保育児は、緊張がたかすぎる。

(5) 歌唱能力：元気さ、歌詞のたしかさなどで、二年保育児がすぐれている。

(6) 拍子うち…二年保育児が大いにすぐれていた。

(7) リズム…うまくリズムにのるという点で二年保育児がかなりすぐれていた。途中でミスをした場合、再びリズムにのせる技能や態度もすぐれている。自分の出番を待っている態度や、出るとき態度には差がなかった。他の子どもを指導しようとする態度は二年保育児に顕著であった。

Table 11 保育期間と保育効果の関係

項目	一年保育児				二年保育児				備考		
	5	3	1	計	5	3	1	計	差	2年 >1年	
プランコのみ	(60%) 300	(16) 48	(24) 24	372	(85) 425	(5) 15	(10) 10	450	+78	○	$X^2=3,332$ $0.2 < p < 0.1$
片足あるき	(80) 400	(18) 54	(2) 2	456	(65) 325	(30) 90	(5) 5	420	-36		$X^2=1,733$ $0.5 < p < 0.3$
言語明瞭さ	(43) 215	(43) 129	(14) 14	358	(45) 225	(50) 150	(5) 5	380	+22		$X^2=0,821$ $0.7 < p < 0.5$
言語元気さ	(37) 185	(39) 117	(24) 24	326	(45) 225	(50) 150	(5) 5	380	+54	○	$X^2=4,107$ $0.2 < p < 0.1$
積木	(39) 195	(53) 159	(8) 8	362	(40) 200	(50) 150	(10) 10	360	-2		$X^2=0,905$ $0.7 < p < 0.5$
旋律	(35) 175	(59) 177	(6) 6	358	(50) 250	(50) 150	0	400	+42	○	$X^2=2,325$ $0.5 < p < 0.3$
発声	(29) 145	(69) 207	(2) 2	354	(55) 275	(45) 135	0	410	+56	○	$X^2=4,833$ * $p < 0.05$
歌詞	(84) 420	(14) 42	(2) 2	464	(95) 475	(5) 15	0	490	+26		$X^2=1,991$ $0.5 < p < 0.3$
拍子うち	(37) 185	(51) 153	(12) 12	350	(85) 425	(15) 45	0	470	+120	○	$X^2=13,171$ * $p < 0.01$
リズム	(45) 225	(51) 153	(4) 4	382	(70) 350	(30) 90	0	440	+58	○	$X^2=11,583$ * $p < 0.01$
絵画態度	(61) 305	(37) 111	(2) 2	418	(55) 275	(40) 120	(5) 5	400	-22		$X^2=1,116$ $0.7 < p < 0.5$
絵画作品	(43) 215	(43) 215	(14) 14	444	(50) 250	(45) 135	(5) 5	390	-54		$X^2=0,821$ $0.7 < p < 0.5$
製作態度	(80) 400	(20) 60	0 0	460	(80) 400	(20) 60	(0) 0	460	0		$X^2=0,0205$ $0.99 < p < 0.98$
製作作品	(76) 380	(24) 72	0 0	452	(75) 375	(20) 60	(5) 5	440	-12		$X^2=0,093$ $0.98 < p < 0.95$
言語障害有り	29 %				15 %				+14 %	○	$p < 0.05$ *
鳥名	2.13				1.8				-0.33		
果物名	3.0				3.35				+0.35		
輪投げ	2.7				2.4				-0.3		
5mの片足あるきの時間	6.71				7.24				+0.53		
10mの片足あるきの時間	15.4				15.5				+1.0		
実施期日 昭36.7 一年保育児 51名 二年保育児 20名											

(8) 語彙量・幼児語ないしは構音障害は、一年保育児に多かった。質問に対して明確にこたえる態度は、二年保育児がすぐれていた。語彙量や受験時の管理では、差異がなかった。

(9) 製作・全般的に二年保育児がすぐれていた。質問も活発であった。教示をあたえてもわからないものは、一年保育児に多かった。

(10) 積木・二年保育児の作業は正確であった。自主性や独創性でもすぐれ、時間的にもはやかった。想像のたくましさについては差異がなかった。

(11) 絵画・二年保育児は観察や形の構成ですぐれ、画面の表現も活動的であった。さらに作業中の態度も活発であり、空想力もすぐれていた。色彩は女子がすぐれていた。

(12) 集団実験・二年保育児、ことに知能のたかいグループでは、発言が活発であった。実験者の教示への理解もすぐれていた。

### (八) 卒園の有無と就学適性

#### (1) 就学適性知能テストによる卒園児の比較

Table 12 卒園の有無と就学適性知能テストの結果

得点段階	卒園児	非卒園児
18	59.3%	24.7%
17	31.4	24.7
16	5.8	22.1
15	3.5	11.7
14	0	6.5
13	0	3.9
12	0	3.9
11	0	1.3
10	0	0
9	0	0
8	0	0
7	0	1.3%
備考	N=86 M=17.52 S. D=0.70	N=77 M=16.1 S. D=2.12
	p<0.01	

鹿児島市玉江小学校の1年生4学級の児童について実施した就学適性知能テストの結果をまとめると Table 12 のとおりである。

この表をながめるとき、卒園児の平均がすぐれていること、分散が上位に集中していることがわかる。しかし、これはかならずしも保育効果だけでないことは、いうまでもない。

#### (九) 卒園の有無と教科成績

付録(5)および(6)の国語科と算数科の学力テストの結果をまとめると Table 13 のとおりである。いずれの教科でも、卒園児と非卒園児に有意差がみとめられた。しかし、この場合にも、この差異をもって、ただちに保育効果によるものと、断定することは危険

である。

そこで就学適性知能テストの結果から、16点以上のものを抽出して、卒園児と非卒園児をくらべると、Table 14 のようになる。この表をながめるとき、付録(5)および(6)による国語科と算数科のテストにおいて、卒園児の成績や成就度のすぐれていることがわかる。

次に各教科の評価目標ごとに、担任教師によって、三段階の点数尺度で評価された結果をまとめると Table 15 がえられた。いずれの教科や、評価目標においても、卒園児のすぐれている傾向がうかがえる。なお、卒園児84名、非卒園児59名とも、就学適性知能テストでの上位群で16点から18点にふくまれるものである。

Table 13 国語科と算数科における卒園児と非卒園児の比較

教科 卒園の有無 得点	国 語		算 数	
	卒園児	非卒園児	卒園児	非卒園児
90以上	49.2%	13.2	52.1	16.7%
80~89	17.5	13.2	29.6	27.8
70~79	8.3	9.4	9.9	9.3
60~69	7.2	15.1	4.2	22.2
50~59	10.3	5.7	2.9	7.4
40~49	3.1	11.2	1.3	7.4
30~39	3.1	9.4	0	3.7
20~29	1.0	7.5	0	1.9
19以下	0	15.1	0	3.7
備 考	N=97	N=53	N=71	N=54
	M=80.8	M=55.8	M=86.5	M=70.1
	S. D=18.2	S. D=26.7	S. D=10.6	S. D=20.3
	p<0.01		p<0.01	

Table 14 統制群法による卒園児と非卒園児との教科成績の比較

卒園の有無 類 教科 得点	卒 園 児				非 卒 園 児			
	国 語		算 数		国 語		算 数	
	実数	%	実数	%	実数	%	実数	%
90 以 上	41	49	46	55	12	20	13	22
80 ~ 89	16	19	19	21	9	15	15	25
70 ~ 79	7	8	10	12	4	7	11	19
60 ~ 69	6	7	3	4	12	20	12	20
50 ~ 59	9	11	2	3	4	7	4	7
40 ~ 49	2	2	2	3	6	11	3	5
30 ~ 39	3	4	2	2	3	5	1	2
20 ~ 29					3	5		
19 以 下					6	10		
N	84				59			
M	81.3		85.0		60.7		72.5	
S. D	17.2		14.1		26.0		15.2	
国語..CR=5.29 p<0.01 算数..CR=4.8 p<0.01								
卒園児, 非卒園児はともに就学適性検査でD(18点満点で16点以上)の知能度のものである								

Table 15 教科の要別得点における卒園児と非卒園児の比較

教科	評 価 目 標	卒 園 児					非 卒 園 児				
		3	2	1	T	M	3	2	1	T	M
国 語	1 相手の顔をみながら聞く	33	44	8	195	2.29	11	40	11	124	2.0
	2 質問に答えたり思っていることが話せる	36	42	7	199	2.34	6	38	18	112	1.80
	3 拾い読みでなく一目読みができる	29	46	10	189	2.22	7	35	20	111	1.79
	4 ならったりひらがなが読める	66	12	7	229	2.69	26	25	11	139	2.08
	5 ならったひらがなが書ける	66	13	6	230	2.71	23	27	12	135	2.18
	6 文字の書き方は正しくきれいである	32	45	8	194	2.28	9	37	16	117	1.89
	7 ひとりではっきり朗読できる	38	35	12	196	2.07	7	29	26	105	1.69
社 会	1 学校のきまりを守り, 楽しい学校生活ができる	37	47	1	206	2.42	12	47	3	133	2.04
	2 自分のことは自分でする	26	59	0	196	2.31	9	51	2	131	2.11
	3 物を大事にする	35	44	5	201	2.36	15	36	11	128	2.06
	4 衛生に気をつけ, よい習慣が身についている	52	30	1	217	2.55	7	48	7	124	2.00
算 数	1 10まで数えたり, かいたりできる	76	8	1	245	2.88	47	12	3	168	2.71
	2 20まで数えたり, かいたりできる	71	11	3	238	2.80	42	16	4	162	2.61
	3 図形の名がわかる	58	25	2	226	2.66	39	20	3	160	2.58
	4 数の順序がわかる	53	24	8	215	2.52	15	35	12	127	2.05
	5 数の増減がわかる	46	30	6	204	2.24	11	37	14	121	1.86
	6 半分と四半分がわかる	30	49	6	194	2.28	11	39	12	123	1.98
理 科	1 自然のようすに関心をもつ	30	54	1	199	2.34	11	47	4	131	2.29
	2 身近な動植物の名前がわかる	51	33	1	220	2.59	8	52	2	130	2.09
	3 天気の簡単な記号がわかる	57	25	3	224	2.62	17	42	3	138	2.08

音楽	1	楽しく静かに聞くことができる	30	54	1	199	2.34	12	45	5	131	2.11
	2	喜んで楽しく歌うことができる	47	36	2	215	2.52	8	50	4	128	2.06
	3	どならないで、きれいにうたう	42	41	2	210	2.47	6	52	4	126	2.05
	4	リズム打ちや拍子打ちができる	54	27	4	220	2.59	10	47	5	129	2.06
図工	1	色の名前がだいたいわかる	58	26	1	227	2.67	17	40	5	136	2.19
	2	思っていることを自由にかくことができる	42	42	1	211	2.48	7	50	5	126	2.02
	3	最後まで熱心にかくことができる	41	42	2	209	2.48	9	44	9	124	1.98
	4	おり紙ができる	40	38	7	203	2.38	10	43	9	125	2.01
	5	粘土を使っていろいろなものを作ることができる	39	44	2	207	2.42	8	51	3	129	2.09
	6	はさみがよく使える	54	30	1	223	2.62	14	47	1	137	2.21
保体	1	お友だちとなかよく運動ができる	45	39	1	214	2.52	15	45	2	137	2.21
	2	やさしい鬼ゴッコ、かけっこ、ボール遊びなどができる	60	24	1	229	2.69	21	38	3	142	2.29
	3	リズムにあわせていろいろな身のこなしができる	46	38	1	215	2.53	15	45	2	137	2.21
	4	運動のきまりがまもれる	50	34	1	219	2.58	19	42	1	142	2.29
	5	健康的なきまりよい生活ができる	54	30	1	223	2.62	7	47	8	123	1.98

#### (IV) 要約と発展課題

##### (一) 要 約

幼稚園教師，小学校教師，保護者などの保育効果観，二年保育児と一年保育児，卒園児と非卒園児の人格特性の差異をあきらかにするため精神能力調査，個別知能テスト，家庭環境調査，保育効果調査，比較実験，学力テストなどを，なるべく統制群法になるよう配慮しながら実施し，あかせて小学校一年担任から各教科の具体的な評価資料を収集した。

その結果から，次のようなことがあきらかになった。

- (1) 保育の有無によって，精神能力に差異がある。
- (2) 個別知能テストの結果では，保育期間によって有意の差はないが，傾向としては二年保育児がすぐれている。
- (3) 保育効果の見方では，小学校教師はきびしく，幼稚園の教師はあまい。幼稚園ずれ，学習態度のまづさ，エリート意識など，おもに生活指導的な側面に，小学校側の批難がむけられている。幼稚園教師の保育効果観には，自意識過剰の傾向がある。
- (4) 保育期間の長短による保育効果の比較実験でも，二年保育が多くの方ですぐれている。音楽リズム，言語などの保育領域で，とくにその傾向が強い。
- (5) 卒園児と非卒園児をくらべる時，知能，学力ともに前者がすぐれている。知能による統制の結果で，あきらかに卒園児がすぐれている。

##### (二) 発 展 課 題

今後の研究をするめるについて，次のような着眼点があげられる。

- (1) 標本数とくに2年保育児を増加する。
- (2) 条件統制をもっときびしくするよう配慮する。

- (3) 研究方法を工夫する。
- (4) 保育効果の継続性を研究する。
- (5) 教師，園，出身家庭，性などの類型によって研究を掘りさげる。
- (6) 保育の領域別に分析的な研究をすすめてゆく。
- (7) 保育効果をめぐる内外の研究業績を広くあつめるよう努力するなど。

(V) 主要参考文献

保育効果についての実証的な文献は、きわめてとばしいといえる。以下は一般的な立場での文献である。

- (1) 小学館，幼児と保育 昭36.10
- (2) 鹿児島県広報文書課，郷土のすがた（県政シリーズ第3号）昭36
- (3) 淵上，篠原，高橋，仁王，幼稚園設置基準の完全施行にともなう教師の適応の推移について（第1報）昭35九州心理学会
- (4) 文部省，幼稚園教育指導者講座集録 昭34 東洋館出版
- (5) 石田・佐久馬共編，うちの子はようちえん 昭34 東洋館出版
- (6) 文部省，幼稚園教育要領 昭32 学芸図書
- (7) 教師養成研究会 幼児教育叢書（全10巻）学芸図書 昭31
- (8) 全国教育調査研究協会 教育調査（特集 就学期の児童）昭31.3
- (9) 松村康平，保育のための幼児心理 昭10 恒星社
- (10) 文部省 わが国教育の現状 昭28 大蔵省印刷局
- (11) 教育大学講座 幼稚園教育（第9巻）昭26 金子書店
- (12) 城戸 幡太郎 幼児の教育 昭25 福村書店
- (13) 阪本 一郎 就学児童の学習素地（児童の生活と教育所載）昭25 金子書房
- (14) 文部省 保育要領 昭23 学芸図書
- (15) B. L. Wellman, The effect of preschool attendance upon intellectual development. 1943.
- (16) A. Gesell, The first five years of life. 1940.
- (17) F. Mayearth, Childfood Education. 1950.

(VI) 付 録

付 録 (1)

園 児 能 力 調 査 表									
組	園 児 名				生年月日	昭 和	年	月	日
保 護 者 名					職 業				
①自分の名前	②父の名前			③母の名前					
④右手指の数	⑤左手指の数			⑥両手指の数					
通貨の名称	1 円	5 円	10 円	100 円					
左右の区別	⑩右の手		⑪左の耳		⑬右の目				
色の名称	⑭赤		⑮黄		⑯青		⑰緑		
数字の反唱	4 7 3 9		2 8 5 4		7 2 6 1				
合計得点	採点法	各問ともできれば○，できなければ□をつける。○…1点 □…0点							
保育期間	1年，2年	特記事項							

## 付 録 ( 2 )

家庭環境および養育史の調査	園 児 名		組 名						
<p>お願い…この調査は保育の研究や実践のための参考資料とするものです。ありのまま、思われたままに、かいていただくようお願いいたします。</p>									
1	<p>あなたの家にあるものに○をして下さい。 ラジオ、テレビ、電気洗濯機、扇風機、電気冷蔵庫、ルームクーラ、電蓄</p>		<p>9 お子さんの出産状況はどうでしたか。 正常分娩 異常分娩（早産 難産）</p>						
2	<p>あなたの家の生活状態は、この附近の家庭にくらべて、次のどれにあたるかをお考えですか。 上、中上、中、中下、下</p>		<p>10 出生以来お子さんの発育についてあてはまるものに○をして下さい。 (イ) 普通であった (ロ) 発育がはやかった (ハ) 発育がおくれ心配した</p>						
3	<p>あなたの家では子どもの教育について夫婦に意見の対立がありますか。 (イ) しばしばある (ロ) とときどきある (ハ) まれにある (ニ) ない</p>		<p>11 あるきはじめてのはいつごろでしたか。 生後 年 月ごろ</p>						
4	<p>あなたの家の部屋数はいくらですか。次の数字のうち、あてはまるものに○をして下さい。 2以下 3 4 5 6 7以上</p>		<p>12 はじめて意味のわかる言葉をかたりはじめたのは、いつごろでしたか。 生後 年 月ごろ</p>						
5	<p>あなたの家にある楽器に○をして下さい。 木琴 オルガン ハーモニカ 琴 ピアノ</p>		<p>13 そのはじめて語った言葉はなんという言葉でしたか。</p>						
6	<p>あなたは子供の教育のための会合に出かけることについて、どう考えておられますか。 (イ) 万難を排してゆく (ロ) いけたら行く (ハ) いきたいが、家事や仕事の都合で行けない。 (ニ) あまり気がすすまない。</p>		<p>14 つづいて語った言葉の中、おぼえておられる言葉をかいて下さい。 (イ) _____ (ロ) _____ (ハ) _____ (ニ) _____</p>						
7	<p>あなたの家でとっておられる新聞についてかいて下さい。 (イ) とっている(新聞名 _____ ) (ロ) とっていない</p>		<p>15 女兒は男児にくらべて、言葉の発達がはやいといいますが、あなたはどう思いますか。 (イ) そうだと思う (ロ) 子どもによる (ハ) かえって男児がはやい</p>						
8	<p>あなたがここ1ヶ月ぐらいの間によまれた雑誌や本について書いて下さい。 (イ) 雑誌名 (ロ) 書 名 著者名</p> <table border="1" data-bbox="220 1599 642 1733"> <tr> <td>_____</td> <td>_____</td> </tr> <tr> <td>_____</td> <td>_____</td> </tr> <tr> <td>_____</td> <td>_____</td> </tr> </table>		_____	_____	_____	_____	_____	_____	<p>16 あなたのお子様は、なにか他人にはわかりにくいことをいいますか。 (イ) 才 月ごろまでいったが今はちがう。 (ロ) いまでもすこしカタコトをいう。 それはどんな言葉ですか、その例をかいて下さい。 a _____ c _____ b _____ d _____</p>
_____	_____								
_____	_____								
_____	_____								



付 録 (3)

幼稚園における保育効果についての調査	共同研 究者名	鹿大教 淵上 孝 鹿大教 仁王義彦	鹿大教 篠原 優
--------------------	------------	----------------------	----------

お願い わたくしたちは幼稚園教育の問題について、ささやかな研究をつけています。この調査は保育効果についてのアンケートです。小学校の先生方は1年生を担当されている御経験をもとにして、卒園児と非卒園児の差異を全般的にくらべながら、次の各項目の右のらんの中、あてはまるところへ○をつけて下さい。幼稚園の先生方は保育された経験にもとづいて、おなじ要領でかいて下さい。お名前はかかれなくて結構です。ありのまま、思ったままにかいて下さい。

1. 次のらんの該当するものに○をつけて下さい。

性別	男	女	勤務先	小学校、幼稚園	資格	教諭、助教諭
----	---	---	-----	---------	----	--------

2. 次のらんのそれぞれに記入して下さい。

勤務年数	幼稚園 年	小学校 年	其他 年	年令	才
------	-------	-------	------	----	---

3. 家庭からすぐ小学校へ入学するものにくらべながら、卒園児の社会性について、次の各項目の中、あてはまるところへ○をつけて下さい。

(1) 学校生活へのよろこび	喜んで行く	かわらない	学校をきらう	不明
(2) 学級活動への参加	積極的	かわらない	消極的	不明
(3) 自主的に行動する態度	すぐれている	かわらない	おとっている	不明
(4) 協力する態度	すぐれている	かわらない	おとっている	不明
(5) きまりをまもる態度	すぐれている	かわらない	おとっている	不明
(6) 友だちの数	多い	かわらない	すくない	不明
(7) 教師への話しかけ	多い	かわらない	すくない	不明
(8) 弱い者をいたわる態度	すぐれている	かわらない	おとっている	不明
(9) しごとの順序の理解	すぐれている	かわらない	おとっている	不明

4. 家庭からすぐ学校へ入学するものにくらべながら、卒園児の知的な面について、次の各項目のらんの中、あてはまるところへ○をつけて下さい。

(1) 文字への関心	すぐれている	かわらない	おとっている	不明
(2) 数唱の能力	すぐれている	かわらない	おとっている	不明
(3) 具体物を数える能力	すぐれている	かわらない	おとっている	不明
(4) 共通語を話す能力	すぐれている	かわらない	おとっている	不明
(5) 幼児語	すくない	かわらない	多い	不明
(6) 他人の話を終りまで聞く態度	すぐれている	かわらない	おとっている	不明
(7) 仕事の計画をたてる能力	すぐれている	かわらない	おとっている	不明
(8) 問題解決力	すぐれている	かわらない	おとっている	不明
(9) 教師への質問	多い	かわらない	すくない	不明

(10) 身近にあるものへの関心	つよい	かわらない	よわい	不明
(11) リズムによる表現能力	すぐれている	かわらない	おとっている	不明
(12) 絵画による表現能力	すぐれている	かわらない	おとっている	不明

5. 家庭からすぐ小学校へ入学するものにくらべながら、卒園児の情緒的な面について、次の各項目の右のらんの中、あてはまるところへ○をつけて下さい。

(1) 安定感	すぐれている	かわらない	おとっている	不明
(2) 根気づよさ	すぐれている	かわらない	おとっている	不明
(3) 動植物への愛情	すぐれている	かわらない	おとっている	不明
(4) かんしゃく	すくない	かわらない	多い	不明
(5) わずかなことで泣く	すくない	かわらない	多い	不明
(6) 審美感	すぐれている	かわらない	おとっている	不明
(7) 道徳性	すぐれている	かわらない	おとっている	不明

6. 家庭からすぐ小学校へ入学するものにくらべながら卒園児の健康や運動能力について、次の各項目の右のらんの中あてはまるところへ○をつけて下さい。

(1) 健康に必要な習慣	よくついている	かわらない	おとっている	不明
(2) 偏食	多い	かわらない	少ない	不明
(3) 運動能力	すぐれている	かわらない	おとっている	不明
(4) 姿勢	よい	かわらない	よくない	不明
(5) 自分の身体への関心	すぐれている	かわらない	おとっている	不明

7. 一般的にいつて、卒園児が非卒園児にくらべて、どんな長所や短所をもっているでしょうか。経験されたまま、思われるままにかいて下さい。

(1) 長 所

\_\_\_\_\_

(2) 短 所

\_\_\_\_\_

## 付 録 (4)

## 幼稚園における保育効果について

お 願 い わたくしたちは幼稚園教育について、ささやかな研究をすすめています。この調査もその一つで、保育効果についてのものです。お名前はかかれなくても結構です。ありのまま思ったままに、次の各問におかきの上、明日、お子様におもたせ下さい。

御主人の 職 業		あなたの 最終学歴		あなたの 年 令	才
-------------	--	--------------	--	-------------	---

(一) あなたはどんな動機で、お子様を幼稚園へ入れられましたか。


(二) あなたはお子様を幼稚園へ入れられて、どんな保育効果を期待しておられますか。


(三) 入園して約3ヶ月になりましたが、お子様の場合、どんな効果がありましたか。
